

## 思想・理論・技法

野田俊作

### 要旨

### キーワード：

アドラー心理学は、思想と理論と技法の3つの部分からできていると思います。思想の中核をなすのは、言うまでもなく『共同体感覚』であり、これは『相互尊敬・相互信頼』とか『横の関係』とか『民主主義』とかいう形で実現されます。理論の中核は『基本前提』であり、具体的には『目的論』や『全体論』や『対人関係論』や『現象学』です。そして技法の中核は『勇気づけ』であり、それは『ライフスタイル診断』や『助言／解釈／正対』という形をとります。この3つは深いところで相互に関係しあっていて、不可分な全体を構成していると思いますし、海外の文献を見ても、このように明確に分けて考えているものはないのですが、私は、便宜的にこの3つを分けて考えてみる必要を感じています。

私がアドラー心理学を教えはじめた初期には、理論を中心にしていました。そのようであったのは、当時の私の生徒のほとんどが専門家であって、彼らが思想よりも理論を求めたことにも起因しますが、それよりも、私自身のアドラー心理学理解が理論中心であったことの方が大きな要因です。そうして数年間、理論中心に教えてみた結果、その誤りに気づきました。理論を学ぶだけでは、どこまでいってもアドレリアンは育てこななかったのです。

私がアドラー心理学の思想的な側面を前面に打ち出し、アドラー心理学を学問としてよりも思想としてとらえなおし、さらには大衆運動として位置づけたとき、初期の有力な生徒の多くは失望して去ってゆきました。彼らはなによりも『素人』と一緒に学ぶことにたえられなかったのでしょう。彼らがそういう人たちだったということに、私はそのときはじめて気づき、彼らが去ってゆくことはいいことかもしれないと思い直しました。その時点で、理論偏重であった旧初級講座を解体して、基礎講座とカウンセラー養成講座に分割し、基礎講座では思想中心、カウンセラー養成講座では理論中心のカリキュラムを組みました。

さて、現在のところ、大阪に関する限り、基礎講座受講者は多いのですが、カウンセラー養成講座受講者は年間10人あまりという状態です。さらには、カウンセラー資格取得後に心理療法士養成課程に入った人は、全部合わせても数人で、しかも新課程施行後に心理療法士資格を得た人は、まだ一人もいません。これはある意味では『惨状』といってもいいと思います。

心理療法士養成課程は、技法中心です。思想と理論とを理解し体得してはじめて、アドラー心理学の強力な援助技法を使う資格ができると考えるので、基礎講座ではもちろん、カウンセラー講座でも、技法の主要部分は教えていないのです。心理療法士養成課程の生徒がいないということは、アドラー心理学の援助技法が伝達されていないということです。これは困ったことです。

アドラーの思想の力はたしかに強力です。ただ思想を知るだけでも、自分自身を救済するには

十分であるかもしれませんが。しかし、他者を援助するためには、理論を知る必要がありますし、さらには技法に習熟しなければなりません。日本のアドラー心理学の次の課題は、アドラーの思想に立脚しつつ、理論と技法に精通した援助専門家を養成することだと考えます。初期の、アドラーの思想を拒否し、非専門家を蔑視する専門家たちでなくて、大衆とともに歩む真の援助者を育ててゆかなければなりません。カウンセラー養成講座修了者が心理療法士養成課程に進まれることを切に希望しています。

#### 更新履歴

2012年6月1日 アドレリアン掲載号より転載